

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 広島市立戸坂小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒732-0016  
広島市 東区 戸坂出江 2丁目 1番1号

E-mail [hesaka@e.city.hiroshima.jp](mailto:hesaka@e.city.hiroshima.jp)

Website <http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0906>

児童生徒数 男子 380名 女子 343名 合計 723名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容

##### ① 本校の目指す学校像と研究主題

###### <目指す学校像>

落ち着きがある中で エネルギーの感じられる学校  
ESDの視点から、教育活動に取り組む学校  
「へさか学び文化」の発展

140年余の歴史と伝統を継承しながら変化・発展し続ける学校  
児童に新しい社会に対応する「生きる力」を育む学校  
教職員が協働の精神で創造的に教育実践を積み上げる学校  
地域・保護者から信頼される開かれた学校

###### <研究主題>

協同して課題を解決し、互いに認め合う子どもを育てる

##### ② 本校の取組の特色

本校の学区には、広島県立中央特別支援学校があり、長年にわたって交流活動が続いている。この継続的な取組をESDの視点から捉え直し、学校全体で系統的・計画的に推進している。これらの活動を通して、課題の解決に向けて共に考え、伝え合い、かかわり合う中で、多様な人々のよさや違いを受け入れ、認め合うことができる子どもを育てることを目指している。

##### ③ 国際理解教育の推進

本校では、国際理解教育を広く多様な人々との相互理解を深めることと捉え、各学年の実態に応じたねらいを設定し、取組を推進した。

###### ア 国際理解教育のねらい

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。(教育基本法第2条第5項)

上記をふまえ、以下のように、国際理解教育のねらいを設定した。

(ア) 異文化や異なる文化をもつ人々を理解するだけでなく、理解した上で、それらを受容しながら共生することのできる態度や能力の育成。(異文化と共生できる資質や能力の育成)【ESD:協力】

(イ) 異文化や異なる文化を有する人々に対して敬意を払い、理解し受容するため、自分自身の国やその歴史、伝統・文化を理解・尊重し、その上に立脚した個性をもつ一人の人間としての自己の確立。

(自己の確立)【ESD:関連】

(ウ) 多様な他者の中で、自己を確立し相互理解を深め、共生していくため、自分の考えや意見を自ら発信し、他者の主張を受け止め、議論をまとめあげ、具体的に行動することのできる態度・能力の育成。

(コミュニケーション能力) 【ESD:伝達】

(引用: 広島県教育資料 P199; ただし, ( ), 【 】内は戸坂小が追記した。)

### イ 各学年のねらい

学年	理念	ねらい
1年	国際理解	(1) 身近な友達や地域の人などと、仲良く関わり、学んだり生活したりしようとする。 (2) 昔から伝わる伝承遊びを楽しむことや、他の国の習慣を知ることにより、それらのよさに気付く。 (3) 自分の考えを相手に伝えようとする。
2年		(1) 年下の友達や高齢者の方々など、様々な人にやさしい心をもって接しようとする。 (2) 昔から伝わる言葉や外国から伝わった言葉などについて知り、それらに親しむ。 (3) 自分の考えをはっきりと相手に伝えようとする。
3年		(1) 様々な人々の文化や生活習慣があることに気付き、仲良く関わろうとする。 (2) 地域の特色を知り、様々な人々の努力によって自分達の生活が支えられていることに感謝の気持ちをもって活動する。 (3) お互いに意見を出し合い、問題を解決しようとする。
4年	国際交流	(1) 様々な国や地域の文化や伝統を知り、大切にして仲良く関わろうとする。 (2) 地域の歴史を知ることを通して、自分達が住む地域に愛着をもち、大切にして活動する。 (3) お互いに意見を出し合い、よりよく問題を解決しようとする。
5年		(1) 自国と他国のかかわりを考え、互いの文化や歴史、習慣について理解する。 (2) 地域に伝わる伝統文化を継承し、地域の人と一緒に活動することができる。 (3) 多くの人や、地域・他国の人と交流し、お互いに意見を伝え合い、協力して活動する。
6年		(1) 自国と他国のかかわりを考え、互いの文化や歴史、習慣について理解を深める。 (2) 自国の文化や地域に伝わる伝統文化に親しみ、地域の人と一緒に活動することができる。 (3) 多くの人や、地域・他国の人と交流し、お互いに意見を伝え合い、協力して活動する。

ウ 各学年の学習内容と学習活動例および各教科等との関連

学年	理念	教科	月	学習内容	学習活動例 / ( ) 主なねらい
1年		国語	1	むかしばなしをたのしもう	昔話の読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりして楽しむ。(1)
		国語	1	はがめけたらどうするの	それぞれの国のやり方を比べることで、似ているところを見つけたり、共通する願いに気付いたりする。(2)
		生活	1	ふゆをたのしもう ・むかしからのあそびをしよう	地域の人に昔から伝承されている遊びを教えてもらい、一緒に楽しむ。(1)(2)(3)
		生活	2	もうすぐ2ねんせい	地域の保育園児を招き、新しい1年生を迎える準備をする。(1)(3)
2年	国際理解	国語	5	かたかなで書くことば	外国から伝わった言葉も、かたかなで書くことを知る。(2)
		国語	1	おばあちゃんに聞いたよ	昔から伝わるいろいろな言い方について知る。(2)
		生活	5	どきどきわくわくまちたんけん	戸坂の町のお店や公民館を訪ね、地域の人々がどのように働いているか調べる。(1)(3)
		生活	1 1	サツマイモをしゅうかくしよう ・しゅうかくのおいおいをしよう	地域の特別支援学校の児童を招き、さつまいもの収穫を喜ぶ会を行う。(1)(2)
3年		国語	1 2	世界の物語をしょうかいしよう 「はりねずみと金貨」	世界の物語を読み、あらすじをまとめて、友達に紹介する。(1)
		国語	1	世界の家のつくりについて考えよう「人をつつむ形—世界の家めぐり—」	いろいろな国の家づくりの工夫について、文章や絵から読み取る。(1)
		国語総合	9	ローマ字 ローマ字に親しもう	ローマ字で書かれた単語を読み、ローマ字を使って書く。(1)
		国語		書写	毛筆・書き初め(1)
		社会総合	9	わたしたちのくらしと商店の仕事	地域のスーパーマーケットを見学したりインタビューしたりして、働く様子を調べる。(2)
		算数	3	そろばんで計算しよう	そろばんを使い、簡単な加法や減法をする。(1)

		総合		すみよいくらしについて話し合おう	特別支援学校を聞いたり、盲導犬についての話を聞いたりすることを通して、視覚障害や社会生活での工夫について調べる。(1)(2)(3)
4年	国際	国語	1 1	くらしの中にある「和」と「洋」を調べよう「くらしの中の和と洋」	身近な生活の中にある、外国の文化と日本の文化の違いやそれぞれのよさを比較して読み取る。(1)
		国語	1 2	世界一美しいぼくの村	家族やふるさとを思う心を描いた本を読む。(1)
		国語	1	百人一首を声に出して読んでみよう	短歌を声に出して読み、言葉の響きやリズムを感じ取るとともに、情景を思い浮かべる。(1)
		国語		書写	毛筆・書き初め(1)
		社会	9 ~ 1 2	くらしのうつりかわり ・古い道具と人々のくらし ・残したいもの、伝えたいもの ・郷土をひらく	昔の道具を使っていた頃の人々のくらしや、町に残る古いものなどについて調べ、新聞にまとめる。(2)(3)
		総合		みんなの幸せについて考えよう	平和・福祉・地域の安全などについて学習し、人々の願いについて考える。(2)(3)
		総合		世界の人となかよくしよう	様々な国の言葉やくらしなどについて関心を持ち、調べたことを発表し合う。(1)(3)
5年	国際 交流	国語	7	古文を声に出して読んでみよう	古文の冒頭を音読し、言葉の響きやリズムを味わう。(1)
		国語	1 1	和の文化について調べよう ・さまざまな資料を活用しよう	複数の本や資料について目的を意識して読み、伝えたい内容や目的に合わせ、資料を活用し説明をする。(1)(3)
		国語		書写	毛筆・書き初め(2)
		社会	9	これからの食料生産とわたしたち	わが国の食料生産の問題点に気づき、安全な食料確保のための方法や国際協調のあり方を考える。(1)
		体育	5	表現運動 ・地域に伝わる伝統文化を受け継ごう(段物)	地域の方に段物を教えてもらい、6年生や地域の人、保護者と一緒に踊る。(2)
		音楽	1 0	日本の音楽 世界の音楽	日本の音楽に親しむとともに、いろいろな国の音楽の特徴を感じ取りながら日本の音楽の特徴と比較する。(1)
		総合	7	平和について考えよう	平和ノートの学習や映画鑑賞、平和集会に向けての取組を通して平和の大切さについて考える。(3)
		総合		お互いの国のよさを知ろう	他国の文化を知るとともに、自分たちの国のよさについて考え、互いの国のよさを理解しようとする。他国から来た人々と交流する。(1)(3)

	総合		人権について考えよう	特別支援学校との交流を通して、障がいについて理解を深め、互いに認め合い支え合って生きることの大切さについて考える。(3)	
	英語		あいさつのことば など	英語に関心を持ち、コミュニケーションを図ろうとする。(1)(3)	
	道徳	3	もう一人のお友達 4-(8)	国際理解と親善(1)	
6年	国際交流	国語	6	町の未来をえがこう ・町の幸福論コミュニティデザインを考える	意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表する。(3)
		国語	7	漢文を読んでみよう	漢文を音読し、言葉の響きやリズムを味わう。(1)
		国語		書写	毛筆・書き初め(2)
		社会	4 ～ 1 2	日本の歴史	先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心、理解を深め、我が国の歴史や伝統を大切に作る心情をもつ。また、我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解し、世界の国の人々と共に生きていくことの大切さを自覚する。(1)
		体育	5	表現運動 ・地域に伝わる伝統文化を受け継ごう(段物)	地域の方に段物を教えてもらい、5年生や地域の人、保護者と一緒に踊る。(2)
		音楽	1	わたしたちの国の音楽	日本の旋律の特徴を味わいながら歌う。(2)
		総合	7	平和について考えよう	平和ノートの学習や映画鑑賞、ピースサミットの作文や平和集会に向けての取組を通して平和の大切さについて考える。(3)
				お互いの国のよさを伝え合おう	他国の文化を知るとともに、自分たちの国のよさについて考え、互いの国のよさを理解し伝え合おうとする。他国から来た人々と交流する。(1)(3)
		総合	2	茶の湯体験をしよう	日本の伝統文化を地域の方々とともに学ぶことを通して、自国の文化のよさや素晴らしさを体験を通して知る。(2)
		総合	2	人権について考えよう	障がいをもつ人々が努力し、周囲の人々と支え合って生きていることを学び、自分にできることを考える。(3)
		英語		あいさつのことば など	英語に関心を持ち、コミュニケーションを図ろうとする。(1)(3)
			道徳	2	義足の聖火ランナー 4-(8)
他	その	茶道クラブ(3～6年)		(1)(2)	

④ 具体的な取組

ア 広島県立特別支援学校との交流

各学年が、特別支援学校の児童・教師とかかわり合い、相互理解を深める活動を毎年行っている。

○ 年間活動計画

月	活 動 内 容
5月	第1回連絡会（戸坂小学校） 年間交流計画立案
9月	3年生 特別支援学校の施設見学・交流会 （目の不自由な人が使う教材・教具・機器の体験，特別支援学校3年生の児童と，自己紹介やゲーム，クイズ，リコーダー演奏による交流）
11月	4年生 交流会 （自己紹介，戸坂小クイズ，ゲーム，合唱・合奏）
	2年生 交流会 （各学級によるさつまいもに関係する出し物，ゲーム，育てたさつまいもを食べる。広島給食メニューのハニレモ煮）
12月	5年生 交流会 （特別支援学校の紹介…ボール運動の紹介・アイマスクをしてボール運動の体験をする，リコーダー演奏，戸坂小学校の紹介（三択クイズ）ゲーム，歌）
	1年生 交流会 （学校紹介，歌，プレゼントわたし，ゲーム）
1月	6年生 交流会 （中央特別支援学校の紹介，戸坂小学校の紹介，歌，ゲーム）
3月	第2回連絡会（戸坂小学校） 反省とまとめ

○ 取組の実際（5学年）

実行委員会を設定し、児童が主体的に交流内容を考えたり、会の進行をしたりすることができた。当日も、一人一役担当し、一人一人が会をつくっているという意識を高めることができた。

「できないからやらない」のではなく、「どうすればみんなで楽しめるか」という視点で交流内容を考えたことにより、交流の意義が深まった。また、ゲームを取り入れたり、ボール運動体験を計画してもらえたりしたことにより、児童が直接ふれ合うことができた。



アイマスクをしてボール運動体験



ゲームをしてふれ合う活動

## イ 他の国の人々との交流

### ○ カンボジア復興支援プロジェクト

カンボジアの方が学校視察に訪れた際、6学年の平和ノートを活用した授業を行い、「平和とは何か」について考え、発表した。



授業後、教員同士で交流会を行い、互いの国の教育について理解を深める機会を設定した。

### ○ 英語でインタビュー（6学年）

英語科の学習で学んだことを生かして、平和公園を訪れている外国の方にインタビューを行った。



## ウ ユネスコスクールとしての取組

### ○ ユニセフ募金活動

### ○ 書き損じハガキ支援活動

### ⑤ 今年度の成果と来年度に向けて

これまでの取組をESDの視点から見直し、国際理解教育推進計画を修正したことにより、学校全体での共通理解や、1学年から6学年までのねらい及び活動内容の系統性を図ることができた。特別支援学校との交流では、児童主体での活動になるように工夫したことにより、より積極的に関わろうとする姿が見られるようになった。

来年度は、さらにユネスコスクールとしての取組を充実させると共に、今年度は十分に取組を推進できなかった、高学年における国際理解教育についても、子ども達が主体的に取り組めるような活動を工夫していく。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）